

# 「丸系八つ頭」の栽培方法

R3.06.15 改訂

埼玉県農業技術研究センター

## 栽培暦

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
作業暦	△-△											
主な作業		畑の準備	マ定植 チ張り		芽かき	マ追肥 チ・除土	かん水	かん水	かん水		収穫始	貯蔵 収穫終

## 1 品種、種芋の量

「丸系八つ頭」は、「八つ頭」から選抜した1個の親芋が500~1,000gになる晩生の親子兼用品種（写真1）。

10a当たり種芋量100kg。孫芋、子芋の中から1個重20~60g程度※で形が良く、無病、無傷で芽のしっかりしたものを選ぶ。種芋は必要に応じ、パダンSG水溶剤、ペンレートT水和剤20、トップジンM水和剤等で消毒を行う。 ※10~20gの小さい種芋で栽培することも可能。この場合、大きい種芋とは分けて栽培する。



写真1 「丸系八つ頭」  
左：親芋 中：子芋 右：孫芋

## 2 定植期

3月下旬~4月中旬

## 3 畑の準備

### 畑の選定

連作を避け（4~5年の輪作が良い）、水持ちが良く、排水の良い畑を選ぶ。また、かん水が可能な畑を選ぶ。

### 畑の消毒

前作の状況に応じて、センチュウ等が多い場合は土壌消毒（D-D油剤、ダゾメット粉粒剤等）を行う。

### 土づくり

10a当たり堆肥を2t、苦土石灰を100kg散布し、深耕する。

### 施肥

晩生品種で親芋が後半肥大型なので、追肥を重点に行う（表1）。

### 害虫防除

植付け前に、コガネムシ類を対象に、効果が長く持続する「ラグビーMC粒剤」、または「ダイアジノンSLゾル」を全面に処理し混和する。

表1 施肥例（単位：kg/10a）

肥料名	基肥	追肥
堆肥	2,000	
苦土石灰	100	
野菜専用NN444 (14-14-14)	50	
BMようりん (0-17-0)	80	
NK-C6号 (17-0-17)		80

成分：N-P-K 各20.6kg/10a

## 4 植付け

### 栽植密度

畝間 100～120cm、株間 30～40cm（10 a 当たり 2,000～3,000 株程度）。商品性の高い L、M 規格生産には、畝間 120cm、株間 35cm が適する。

### マルチ

初期生育を促進するためにマルチ（幅 95cm）を張る。雑草が多い畑の場合、黒マルチ又はグリーンマルチを使用する。

### 植付け方法

マルチに穴を開け、植え穴棒（写真 2）を用いて植え穴を開ける。植穴の深さは、芋を入れた時に芋頂部が地表から 7 cm 程度の深さになるようにする（図 1）。芽を上向きに種芋を植え穴に入れ、覆土する。



写真 2 植え穴棒

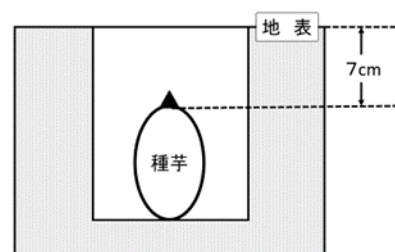


図 1 植付け模式図

## 5 管理作業のポイント

### 芽かき

5 月下旬に側芽を除去し、太い芽を 1 本残す。

### マルチ除去

土寄せの 1 週間前（6 月下旬）にマルチを除去する。

### 追肥

土寄せ時に畝間に追肥する。

### 害虫防除

土寄せ時に、コガネムシ類を対象にオンコル粒剤 5 を土壌混和する。

### 土寄せ

6 月下旬～7 月上旬の梅雨の晴れ間に、ロータリー式土寄せ機を使用し、5 cm 程度の高さに土寄せする。畝の肩部分が大きくなるように土を寄せる。土壌が乾燥している時は、土寄せにより根が切れ、丸系八つ頭へのストレスが増すため作業を避ける。培土が浅すぎると強風時に倒伏の危険性があり、また、培土が多すぎると親芋が長くなる危険もあるので併せて注意する。

### かん水

7 月中旬以降、降雨がない場合、スプリンクラーや灌水チューブ等を用いて、3～4 日間隔で 1 回 15 mm または 7 日間隔で 1 回 30mm 程度の定期的なかん水を行う。

## 6 収穫・出荷

### 収穫

「丸系八つ頭」は晩生のため 11 月上旬から収穫する。収穫は、鎌で地上部を葉柄 1～2 cm を残して刈り取り、トラクタに掘取機を装着して株ごと掘り起こす。

### 出荷

株を分解して芋を分けた後、土、根、毛を取り出荷する。10 a 当たり、親芋収量は 2.0～2.5 t、子・孫芋収量は 1.0～1.5 t である。

## 7 種芋貯蔵

### (1) ほ場貯蔵（写真3）

11月下旬～12月中旬までに1列おきに収穫し、畝間の土を土寄せ機を用いて20cm程度の高さに土寄せする。その後、この畝に使い古しのトンネル資材等を直接のせて両端を土で押さえ、雨水や雪解け水の侵入を防ぐ。この方法で3月中旬まで種芋の貯蔵が可能であり、子芋に切り口ができないため種芋の腐敗はほとんどみられない。しかし、親芋は芽の部分から腐りやすく、ほ場貯蔵後の親芋出荷は難しい。



写真3 ほ場貯蔵

### (2) 穴貯蔵（写真4）

畑の脇などに深さ70cm～120cm程度の貯蔵穴を準備する。11月～12月に、親芋からはずした子芋をタマネギ袋等のネットに入れ、穴に積み重ねて上と横にワラを敷き、土を12月下旬までに2回に分けて25cm程度の厚さにかけて、雨除けをして貯蔵する。子芋はできるだけばらさず、乾かないうちに貯蔵する。ほ場貯蔵と異なり、子芋の切り口から腐敗し傷む場合がある。

（種芋を入れたネットごと、トップジンM水和剤やベンレートT水和剤20の殺菌剤希釈液に浸漬処理し、薬液を乾かしてから貯蔵すると、腐敗する芋の割合が少なくなり、貯蔵率が向上する。ただしこの場合、種余りの芋は販売できない）。



写真4 穴貯蔵（右は雨よけの様子）

### (3) 定温庫貯蔵（写真5）

11月～12月に、親芋からはずした子芋を厚さ0.03mmのポリエチレン袋に入れて密封し、12℃に設定した定温庫で貯蔵する。袋の中には芋以外には何も入れない（もみがら等は入れない）方が良い。



写真5 定温庫貯蔵

### （参考）種芋が不足するときは

次作の種芋を効率的に増殖させたい場合、密植にすることで面積当たりに得られる種芋を増やすことができる。また、当年の種芋が不足した場合、小さい芋や親芋を種芋に利用することで種芋の量を確保することができる（コストが増えるため緊急対応技術とする）。

#### 1 次作の種芋を多く確保するために密植栽培する

##### 種 芋

20～60g程度※の無病の孫芋

※10～20gの種芋を利用する場合は、密植による種芋増殖の効果は得られない。

##### 栽 植 密 度

畝間 120 cm、株間 30 cm

##### 管 理

先のマニュアルに準ずる。

#### 2 種芋として小さい芋を活用する

##### 種 芋

2～9gの無病の種芋

##### 育 苗

2月下旬～3月下旬に2.5号の黒ポリポットに植え付け育苗する（写真6）。培土は消毒した畑土などの無病土を使用し、種芋の芽が埋まる程度の深さに植える。



写真6 育苗株

## 育苗管理

ハウス内で5月上旬まで育苗する。室温は15～25℃程度に保つ。温度が確保できない場合は、電熱式保温マットなどを用いる（写真7）。

土が乾かないように管理し、特に生育後半は乾きやすいので注意する。

葉が展開後、IB化成や液肥を施用して生育を促進させる。

## 定植

5月上旬以降、草丈がポットの高さ以上に伸びたら、マルチに深さ13cm程度の植え穴をあけ、種芋の発芽位置が表土から7cm程度の深さになるよう深植えする（図2）。このとき、少なくとも葉が1枚は地表に出るよう注意する（写真8）。

## 定植後の管理

先のマニュアルに準ずる。



写真7 保温マットを使用した育苗

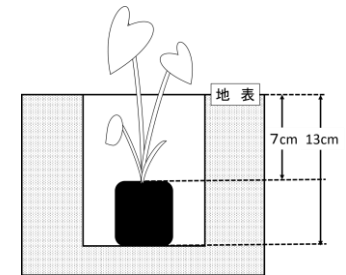


図2 ポット苗の植付け模式図



写真8 定植直後

## 3 種芋として親芋を利用する

### 種芋

親芋の分割片（写真9のように芽を残した30～40g程度の分割片）を用いる。発芽力は子芋や孫芋よりも劣るため、補植用の株をほ場脇に用意しておくといよい。

### 管理

先のマニュアルに準ずる。

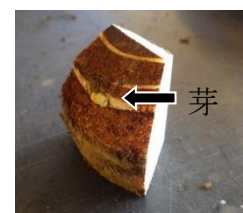


写真9 親芋の分割片

### 〈栽培暦使用上の遵守事項〉

- 1 本資料は指導者向けの資料で農薬登録の状況は令和3年6月1日時点（日本植物防疫協会農薬情報データベース参照）のものであります。転載する際は担当へ御連絡下さい。
- 2 農薬の容器に記載されている使用基準を遵守し、使用上の注意を守り適正に使用してください。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期してください。
- 3 農薬を散布するときは、他の作物や周辺に飛散しないように注意してください。

（埼玉県農業技術研究センター 高収益畑作担当（048-536-0442））